

科目名	専門演習Ⅱ Seminar Ⅱ						
科目担当者	酒井 宏 SAKAI Hiroshi						
単位数	4	配当年次	3 年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	経営者や働く人から寄せられた相談事項について、法令、判例、行政解釈等を参照して検討します。見解が分かれる事案については、ゼミ生を 2 つのグループに分けてディベートします。企業の労務管理の現場での悩みに接することによって、労働法の理解を深めることをめざします。 また、後期には日本の雇用システムや労働法の課題についての文献を読んで、幅広い知識を習得するとともに、論証方法について学びます。						
授業の到達目標	①労働法の基本的事項について理解し、考察する力を身につける。 ②自らの意見を理論的に文章化する能力を得る。						
授業計画・内容	1	事例研究①			16	文献購読と討論①	
	2	事例研究②			17	文献購読と討論②	
	3	事例研究③			18	文献購読と討論③	
	4	事例研究④			19	文献購読と討論④	
	5	事例研究⑤			20	文献購読と討論⑤	
	6	事例研究⑥			21	文献購読と討論⑥	
	7	事例研究⑦			22	文献購読と討論⑦	
	8	事例研究⑧			23	文献購読と討論⑧	
	9	事例研究⑨			24	文献購読と討論⑨	
	10	事例研究⑩			25	文献購読と討論⑩	
	11	事例研究⑪			26	文献購読と討論⑪	
	12	事例研究⑫			27	文献購読と討論⑫	
	13	事例研究⑬			28	卒業論文のテーマ発表①	
	14	事例研究⑭			29	卒業論文のテーマ発表②	
	15	事例研究⑮			30	卒業論文のテーマ発表③	
授業外学修 (事前学修)	・発表者はレジメを作成すること。(4 時間程度) ・発表者以外の者は、関連条文、実態調査結果や判例を事前に読んで、疑問点等を整理しておくこと。(毎週 4 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	・議論した内容を整理し、復習すること。(毎週 2 時間程度) ・労働法に関する新聞記事や専門誌を読み、関連条文や関連判例、世界の動向を調べること。(毎週 4 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	発表の内容、授業中の発言					100%	①、②、③
成績評価基準	秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書	適宜資料を配布します。						
参考文献	適宜紹介します。						
その他							